

お 知 ら せ

記者発表資料	平成30年2月2日
配布日	

■同時発表先：岡山県政記者クラブ
岡山市政記者クラブ

歴史に学ぶ岡山の治水技術を伝える

～岡山県の技術系職員を対象に、現場見学会を開催～

建設産業は、日頃より道路や河川などの社会インフラを整え、災害時には初動対応から応急復旧活動まで多岐にわたって私たちの暮らしを支える重要な産業です。このため、中国地方整備局では、現場見学会や出前講座などを通じて土木の魅力発信に努めています。

この度、岡山県の公共事業に携わる技術系職員を対象に現場見学会を以下のとおり開催します。技術水準の向上を目的に、約20名の参加者が「百間川分流部改築事業」や「小田川合流点付替え事業」など河川工事の現場を見学します。

■日 時：平成30年2月7日（水）

百間川分流部改築事業 9:30～10:10

百間川河口水門 10:40～11:20

小田川合流点付替え事業 14:45～15:25

■場 所：岡山県岡山市中区今在家地先 他（詳細は別添参照）

国土交通省岡山河川事務所では、岡山三川（吉井川、旭川、高梁川）の治水・利水・環境に関する河川工事や維持管理に取り組んでいます。

百間川分流部では、平成31年夏の百間川放水路事業完成を目指し、放水路としての適切な分流機能強化のための改築工事を進めています。現在実施している工事では、歴史的遺構である一の荒手巻石部の補強・復元を行い、津田永忠が残した江戸時代の土木技術を後世へと繋ぐと同時に、岡山市街地の洪水に対する安全度が飛躍的に向上します。平成28年の河口水門増設、昨年完成した二の荒手の復元など、昭和40年頃より約50年に渡って実施してきた百間川改修事業の集大成となる工事です。

<問い合わせ先>

【問い合わせ先】国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所

電話 086-223-5101（代表）

086-223-5184（工務課直通）

<担 当> 副所長 今岡 俊和（内線204）

工務課長（事業内容） 児子 真也（内線311）

見学場所

○百間川分流部改築事業

旭川放水路（百間川）は、岡山市街地を洪水被害から守るため、昭和45年度から抜本的な河川改修に着手し、平成9年には堤防が概成、平成26年度には河道の整備、河口水門の増設が完了しています。

現在、旭川と百間川の適切な洪水分派機能を確認するため、江戸時代の分流部の荒手方式による治水の仕組みと、当時から残る「一の荒手」「二の荒手」を活かして分流部の改修を進めています。

○百間川河口水門

百間川河口部水門にはライジングセクターゲートを採用しています。このゲートはシェル構造の扉体の両端が円盤となっており、円盤を回転させることにより扉体を開閉する形式です。流下能力不足となっていた百間川河口での治水安全度向上に大きく寄与しています。また、周辺景観に配慮した意匠、素材などを採用するとともに、排水管や電線管等の添加物も表面に出さない構造となっています。

なお、本事業は平成26年度に全建賞、平成29年度に土木学会技術賞を受賞しています。

○一般国道2号 倉敷立体

倉敷立体事業は、一般国道2号の倉敷市新田から倉敷市船穂町船穂に至る延長7.7kmの区間において4車線化整備を行う事業です。

この地区では、高梁川大橋付近で慢性的な交通渋滞が発生しており、4車線化により交通容量を拡大させることで、倉敷市街地の渋滞の緩和や、それに伴う沿道環境の改善を図ることなどを目的としています。

○小田川合流点付替え事業

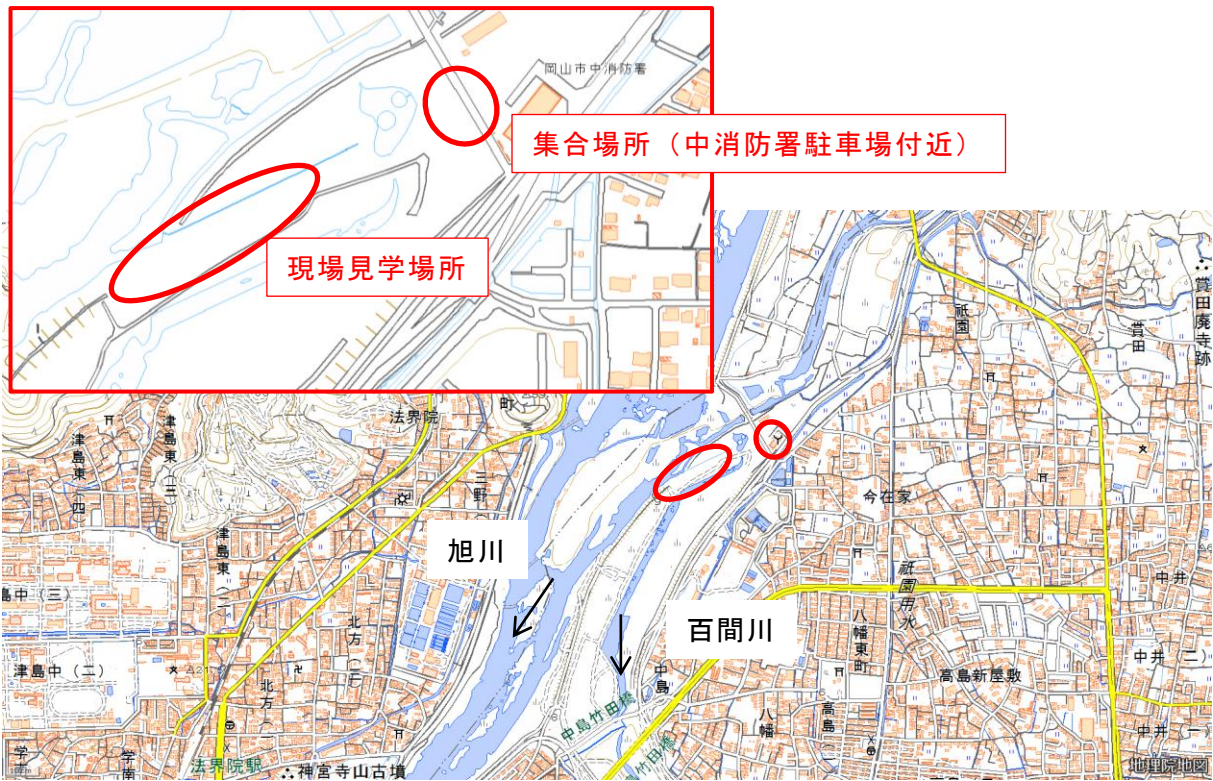
高梁川の支川小田川は河床勾配が緩く、合流する高梁川の水位上昇の影響を受け水が流れにくい特性があり、合流点付近の真備地区では昭和47年7月洪水や昭和51年9月洪水で大規模な内水被害が発生しています。

本事業は、小田川の洪水時水位を下げるため、小田川と高梁川が合流する位置を約4.6km下流に付替えるものです。付替えを行うことで河川整備計画の目標である昭和47年7月洪水（戦後最大の洪水）が再び発生した場合でも、河川水の氾濫による小田川沿川の浸水被害防止が図れます。

見学場所 1 : 百間川分流部



百間川一の荒手改築工事



位置図

見学場所 2 : 百間川河口水門



百間川河口水門（ライジングセクターゲート）



見学場所 3 : 小田川合流点付替え事業



小田川合流点付替え事業

